中国特許の真の実態：「量」と「質」の検証から探る日本企業の知的財産戦略

中国特許：「過度な脅威論」と「過小評価」を超えて。
検証の結果、脅威は「上位企業」と「特定分野」に集中する選択的・実質的リスクであることが判明。

「量」の検証：低い海外比率に潜む巨大な絶対数



絶対数 世界3位・PCT出願 世界1位

海外比率

比率のみで軽視するのは誤り。
海外存在感は世界トップクラス。



中国国内の権利網（年間約97万件の授権）

現地事業のFTOリスクに直結。
世界最大の網点で現地進出企業を直接拘束。

「質・分野」の検証：上位企業と特定技術分野へのリスク集中

「質」への転換





トップ層への高価値特許の集中

全体平均は日米欧に及ばないが、HuaweiやCATLなど上位企業の質は世界水準。

「分野」への集中

通信SEP・電池・生成AI等に脅威が集中

一律に恐れるのではなく、上位企業と特定重点分野に資源を絞った対応が有効。



実態判定と日本企業への影響（主要観点）

量（国内・海外）		質・影響力		分野・権利行使	
状態	脅威論寄り	状態	二極構造（桔抗）	状態	特定分野で強大な脅威
影響	中国市場での事業自由度（FTO）制限と海外絶対数の増大	影響	上位数十社は脅威だが、全体の裾野には低質出願も残留	影響	通信SEP・電池等でのライセンス支払い・高額賠償リスク

Gemini Notebook